

# クレディター・プレゼンテーション

2012年3月期第3四半期 決算説明資料

**NOMURA**

野村ホールディングス株式会社

2012年2月

© Nomura

本資料は、米国会計基準による2012年3月期第3四半期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。本資料は、2012年2月1日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

- エグゼクティブ・サマリー
- 2012年3月期決算の概要(第3四半期、第1-3四半期累計)
- 営業部門、アセット・マネジメント部門、ホールセール部門
- 金融費用以外の費用、コスト削減の進捗
- 財務基盤、リスク・マネジメント、資金調達、流動性

## 参考資料

## 第3四半期決算

- 前四半期比で増収・増益 ~ 全ビジネス部門が税前黒字を計上
- 営業部門、アセット・マネジメント部門は、厳しい環境下でも健闘
- ホールセール部門は、全地域・全ビジネスで大幅増収

## 収益環境の変化への対応

- 総額12億ドルのコスト削減、損益分岐点の引き下げを推進中
- 厳格なリスク・マネジメントを継続

## 圧倒的な顧客基盤・ 強固な財務基盤

- リテール・資本市場業務における圧倒的な地位と顧客基盤
- 流動性の高い、健全なバランスシート
- 将来の規制を見据えた資本政策(2011年12月末 Tier1比率12.9%、Tier1コモン比率11.1% バーゼル2.5基準)
- 潤沢な手元流動性を保持(2011年12月末 流動性ポートフォリオ残高 5.5兆円、総資産対比 約17%)
- 保守的な調達構造(無担保調達の約80%は長期調達、平均償還年限は約6年)

# 2012年3月期決算の概要(第3四半期、第1-3四半期累計)

# NOMURA

## 四半期

(10億円)	2011年3月期		2012年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計 (金融費用控除後)	295.9	299.4	330.4	301.6	<b>404.9</b>	+34%	+37%
営業部門	97.5	96.2	94.2	84.0	<b>79.7</b>	△5%	△18%
アセット・マネジメント部門 <sup>1</sup>	17.3	17.3	18.8	16.0	<b>15.3</b>	△4%	△11%
ホールセール部門	172.2	186.3	141.2	79.3	<b>176.2</b>	2.2×	+2%
3セグメント合計	286.9	299.9	254.3	179.3	<b>271.2</b>	+51%	△5%
その他 <sup>2</sup>	7.2	2.5	77.4	124.7	<b>136.2</b>	+9%	18.9×
営業目的で保有する 投資持分証券の 評価損益	1.7	-3.0	-1.3	-2.4	<b>-2.5</b>	-	-
金融費用以外の費用	268.1	262.0	296.0	346.2	<b>370.5</b>	+7%	+38%
税前利益	27.8	37.4	34.4	-44.6	<b>34.5</b>	-	+24%
3セグメント税前利益 合計	39.4	53.4	14.6	-57.7	<b>52.2</b>	-	+33%
純利益(損失) <sup>3</sup>	13.4	11.9	17.8	-46.1	<b>17.8</b>	-	+33%

## 通期

2011年度 1-3Q累計	前年 同期比
1,036.9	+25%
257.9	△13%
50.1	+2%
396.7	△11%
704.7	△11%
338.3	6.1×
-6.1	-
1,012.7	+31%
24.2	△57%
9.1	△88%
△10.5	-

## ハイライト

- 第3四半期の収益：4,049円(前四半期比：34%増、前年同期比：37%増)、税前利益：345億円、当期純利益<sup>3</sup>：178億円
- 営業部門
  - 収益：797億円(前四半期比：5%減)、税前利益：101億円(前四半期比：6%減)
  - 投資家のリスク許容度が低下する中、コンサルティング営業を推進し、若干の減収に留めた
- アセット・マネジメント部門
  - 収益：153億円(前四半期比：4%減)、税前利益：42億円(前四半期比：10%減)
  - 運用資産残高は減少するも、コストを抑制し、安定した利益を確保
- ホールセール部門
  - 収益：1,762億円(前四半期比：2.2倍)、税前利益：378億円
  - 全地域および全ビジネスラインで、前四半期比、大幅増収
  - グローバル・マーケット：トレーディング収益が改善、フィクスト・インカムが牽引
  - インベストメント・バンキング：伝統的ビジネスおよびソリューションビジネスの貢献により、グロス収益<sup>4</sup>は国内外で大幅に拡大
- 第1-3四半期(累計)の収益：1兆369億円(前年同期比：25%増)、税前利益：242億円(前年同期比：57%減)、当期純損失<sup>3</sup>：105億円
  - 日本における税制改正の影響により、当期純利益<sup>3</sup>が133億円減少

(1) 2011年4月より、アセット・マネジメント部門のノムラ・バンク・ルクセンブルグS.A.をその他のビジネスに統合したことに伴い、アセット・マネジメント部門とその他の損益を過去に遡り組み替えております。  
 (2) 野村土地建物の子会社化に伴う新連結会社を含む。第3四半期のその他には、自社およびカウンターパーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益162億円が含まれる。  
 (3) 野村ホールディングス株主に帰属する当期純利益(損失)  
 (4) 「その他」を除くインベストメント・バンキングのグロス収益

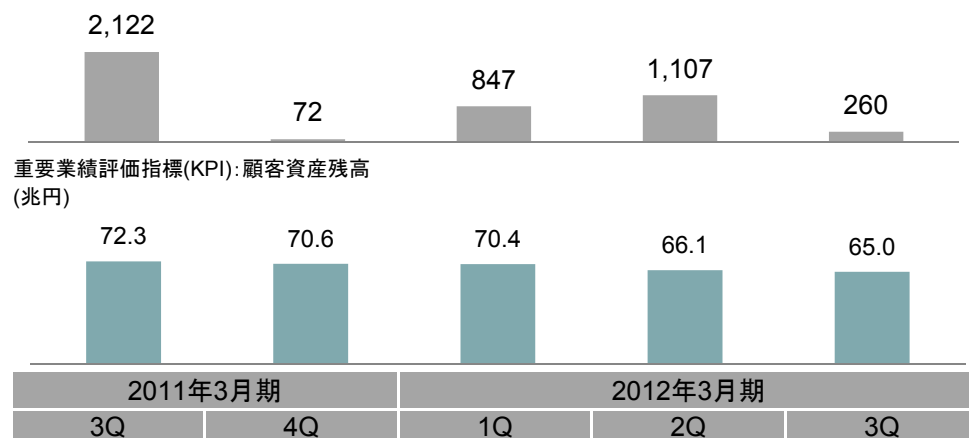
## 収益合計(金融費用控除後)、税前提利益

(10億円)

	2011年3月期		2012年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計 (金融費用控除後)	97.5	96.2	94.2	84.0	<b>79.7</b>	-5%	-18%
金融費用以外の費用	74.5	78.6	72.2	73.3	<b>69.6</b>	-5%	-7%
税前提利益	23.0	17.7	22.0	10.7	<b>10.1</b>	-6%	-56%

## 顧客資産純増<sup>1)</sup>と顧客資産残高

顧客資産純増(10億円)



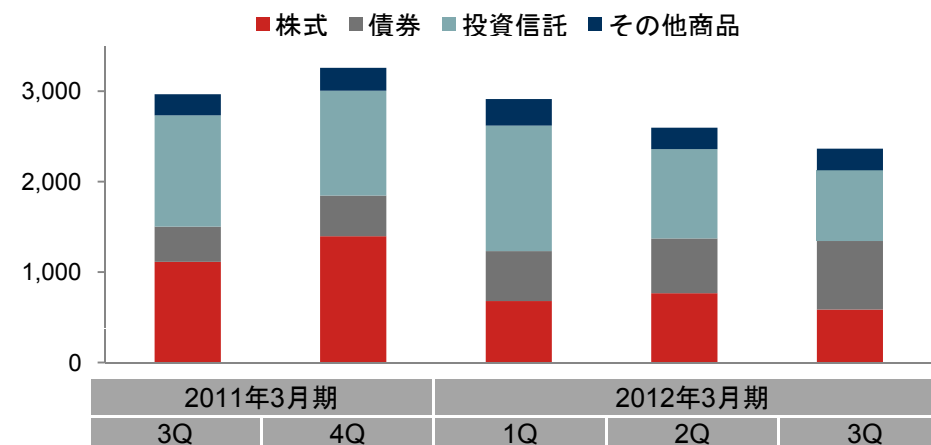
(1) 顧客資産純増=資産流入額-資産流出額

## 決算のポイント

- 厳しい市場環境にもかかわらず、若干の減収に留めた
  - 投資家のリスク許容度が低下する中、コンサルティング営業を推進
  - 適切にコストを管理し、前四半期比で若干の減益
- コンサルティング営業を継続し、7四半期連続で顧客資産純増
  - 内外債の販売拡大
  - 新規口座開設数 5万口座
  - 対面(店舗)・非対面(ネット&コール)の連携強化、お客様との接点拡大
- 顧客基盤
  - 顧客資産残高 65.0兆円
  - 残あり顧客口座数 497万口座
  - 顧客資産純増 2,603億円

## 総募集買付額

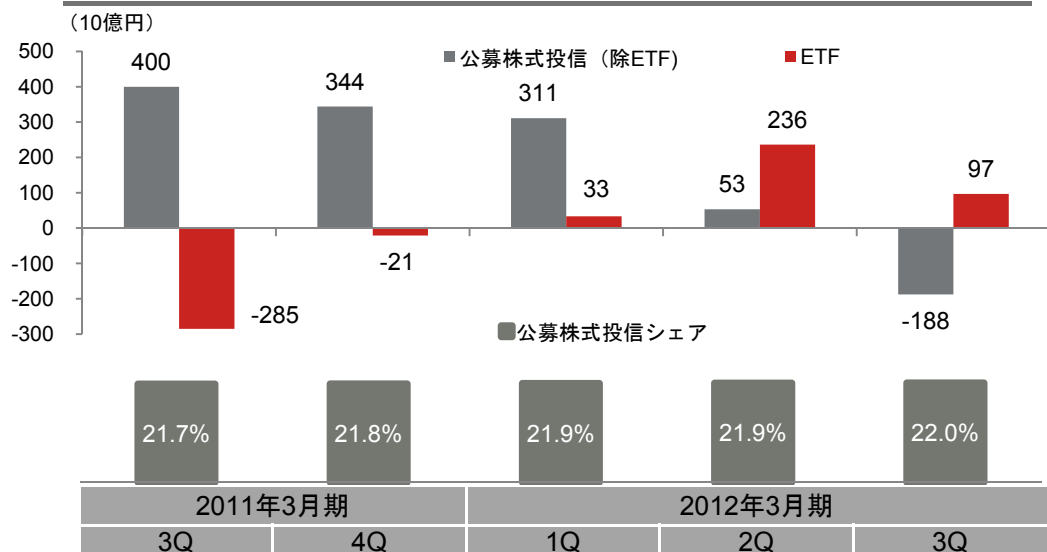
(10億円)



## 収益合計(金融費用控除後)、税前提利益<sup>1</sup>

(10億円)	2011年3月期		2012年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計 (金融費用控除後)	17.3	17.3	18.8	16.0	15.3	-4%	-11%
金融費用以外の費用	11.7	11.0	11.4	11.2	11.1	-2%	-6%
税前提利益	5.6	6.3	7.4	4.7	4.2	-10%	-24%

## 公募株式投信資金流入<sup>2</sup>、公募株式投信シェア<sup>2</sup>

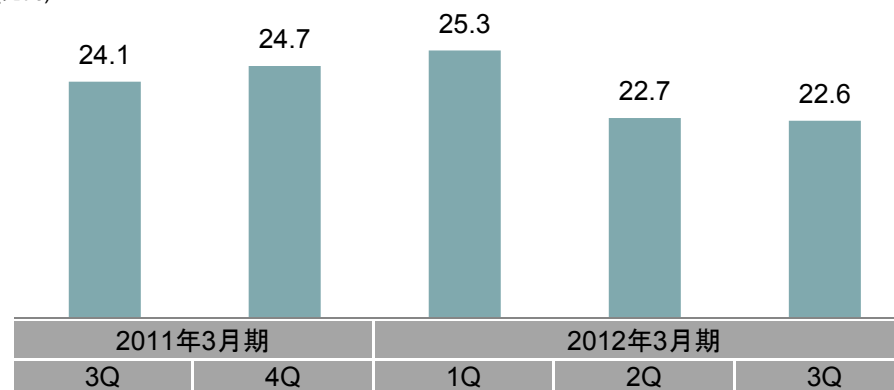


## 決算のポイント

- 第3四半期末の資産運用残高: 前四半期末比、微減
- コストを抑制し、安定した利益を確保
- 公募株式投信(除:ETF): 投資家の買い控えもある中、投資家ニーズに合った商品を提供し資金を取り込む
  - <主な新規設定投信の当初設定額と12月末残高>
    - 野村グローバル高配当株プレミアム(通貨選択型) 11/18設定: 546億円→1,056億円
    - 野村SNS関連株投資 10/28設定: 135億円→191億円
    - ノムラ・アジア・コレクション 12/16設定: 142億円→165億円

## 運用資産残高

重要業績評価指標(KPI)  
(兆円)



(1) 2011年4月より、アセット・マネジメント部門のノムラ・バンク・ルクセンブルグS.A.をその他のビジネスに統合したことに伴い、アセット・マネジメント部門とその他の損益を過去に遡り組み替えております。  
 (2) 投資信託協会資料から作成。野村アセットマネジメント単体

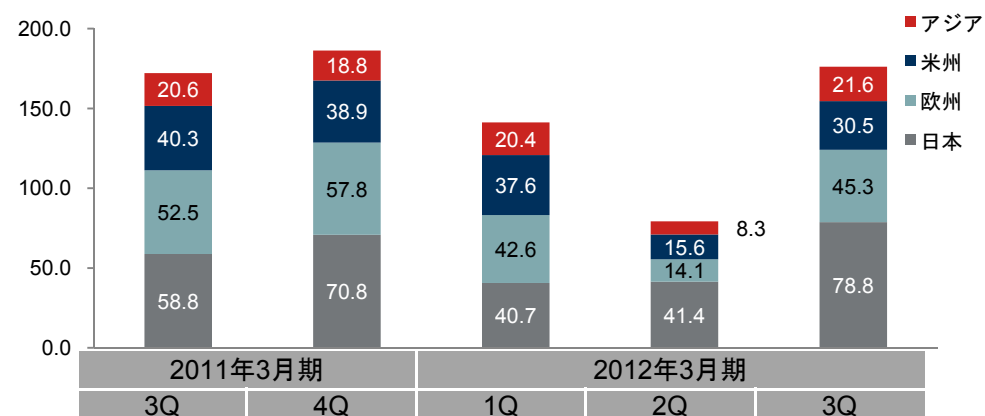
## 収益合計(金融費用控除後)、税引利益

(10億円)

	2011年3月期		2012年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計 (金融費用控除後)	172.2	186.3	141.2	79.3	<b>176.2</b>	2.2×	+2%
金融費用以外の費用	161.4	156.9	156.1	152.4	<b>138.3</b>	-9%	-14%
税引利益/損失	10.8	29.4	-14.9	-73.1	<b>37.8</b>	-	3.5x

## 地域別収益<sup>1)</sup>

(10億円)



(1) 2012年3月期第3四半期の開示に合わせるため、数値の組み替えを行っております。  
 (2) 「その他」を除くインベストメント・バンキングのグロス収益

## 決算のポイント

- 全地域及び全ビジネスラインで、前四半期比、大幅増収
  - 顧客中心主義のビジネスアプローチが浸透し、各地域・ビジネスで顧客ニーズに対応したサービスを提供
  - フィクスト・インカム、エクイティの各プロダクトでトレーディング収益が改善
- 地域別概況 (第3四半期収益、前四半期比)
  - 日本 (788億円、90%増)
    - インベストメント・バンキング<sup>2)</sup>は地域間連携の推進等により、M&AやDCMを軸に増収。プライベート・エクイティ・ビジネスも大きく収益に寄与
    - フィクスト・インカムは新商品へのビジネスフローが後押し、堅調に推移
  - 欧州 (453億円、3.2倍)
    - 主要プロダクトが好調でフィクスト・インカムが大幅増収
    - インベストメント・バンキング<sup>2)</sup>では金融機関向け案件の執行や多様なソリューション提供により収益を拡大
  - 米州 (305億円、96%増)
    - 市場出来高が低迷する中、エクイティでは堅調なキャッシュとデリバティブの改善により収益が回復
    - フィクスト・インカムは、好調な為替と証券化商品の改善により増収
  - アジア (216億円、2.6倍)
    - 金利、為替、クレジットが寄与し、フィクスト・インカムが大幅増収



## 収益合計(金融費用控除後)、税前提利益

(10億円)

	2011年3月期		2012年3月期			前四 半期比	前年 同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
フィクスト・インカム	71.7	69.4	67.6	45.7	<b>71.2</b>	+56%	-1%
エクイティ	61.5	64.3	56.7	33.4	<b>39.7</b>	+19%	-35%
その他	7.8	3.3	5.8	-6.5	<b>7.7</b>	-	-0%
収益合計(金融費用控除後)	141.0	137.0	130.1	72.6	<b>118.7</b>	+63%	-16%
金融費用以外の費用	127.8	125.5	124.3	121.2	<b>110.3</b>	-9%	-14%
税前提利益/損失	13.2	11.5	5.7	-48.6	<b>8.4</b>	-	-36%

## 決算のポイント

### <フィクスト・インカム>

- 収益: 前四半期比56%増
- 難しい市場環境の中、ほぼ全てのプロダクトで前四半期比増収
  - 欧州、アジアの収益が伸長し、海外収益比率が上昇(上半期:53%→第3四半期:68%)
  - クレジット、金利ともにストラクチャード・ビジネスが収益を牽引、為替は顧客フローとトレーディング収益の増加により増収
  - 証券化商品では、エージェンシー・プロダクトが市場シェアを堅持
- 顧客フローからの収益: 前四半期比5%増

### <エクイティ>

- 収益: 前四半期比19%増
- 顧客フローからの収益: 主要マーケットの出来高低迷が影響、前四半期比で減少
- 各地域の状況
  - 米州が好調
    - 堅調なキャッシュ・エクイティに加え、CB、デリバティブが改善
  - 前四半期比でアジアは増収、日本は若干の減収

## 収益合計(金融費用控除後)、税前提利益

(10億円)

	2011年3月期		2012年3月期			前四 半期比	前年 同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
インベストメント・バンキング (グロス) <sup>1</sup>	61.9	54.4	32.3	23.8	<b>45.1</b>	+90%	-27%
その他部門等への アロケーション	25.6	25.1	13.4	12.3	<b>21.7</b>	+76%	-15%
インベストメント・バンキング (ネット)	36.2	29.3	18.9	11.5	<b>23.4</b>	2.0x	-35%
その他	-5.1	20.1	-7.7	-4.8	<b>34.0</b>	-	-
収益合計(金融費用控除後)	31.1	49.4	11.2	6.7	<b>57.4</b>	8.6x	+84%
金融費用以外の費用	33.5	31.5	31.8	31.2	<b>28.0</b>	-10%	-17%
税前提利益/損失	-2.4	17.9	-20.6	-24.5	<b>29.4</b>	-	-

## 決算のポイント

- 前四半期比、収益を大幅に改善
  - 日本及び海外ともに収益を拡大
  - 伝統的ビジネスに加えて、ソリューション・ビジネスも大きく収益に貢献
  - マザーマーケットを軸に、クロスボーダー案件を獲得・執行
  - プライベート・エクイティ・ビジネスで収益を計上
  - 収益拡大および大幅なコスト削減により、生産性が向上し、税前提黒字を実現
- 日本
  - 国内外発行体の債券引受、クロスボーダーを含むM&Aが収益を牽引
  - リーグテーブル: #1 ECM(30.3%)<sup>2</sup>, #1 DCM(25.2%)<sup>3</sup>, #1 M&A(37.1%)<sup>2</sup>
- 欧州
  - 欧州金融機関のECM、DCM共同主幹事案件を複数獲得
  - フィーパールが減少する中、収益性の高いソリューション案件が大きく収益に寄与
- アジア
  - M&A案件のクローズが収益に貢献
- 米州
  - フィナンシャル・スポンサー関連案件やソリューション・ビジネスで収益を計上

(1) 「その他」を除くインベストメント・バンキングのグロス収益

(2) 出所: トムソン・ロイター(期間: 2011/1/1~2011/12/31)、M&Aは不動産案件を含む

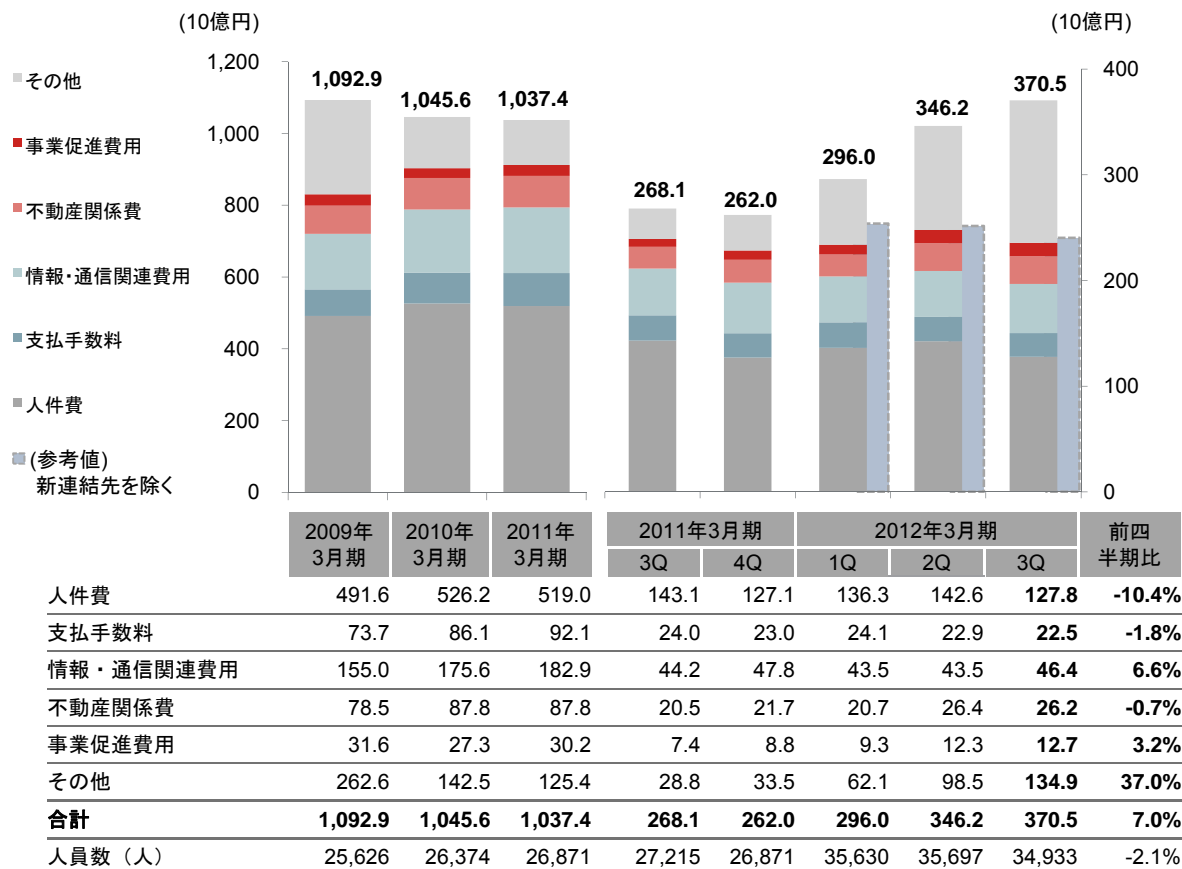
(3) 出所: トムソン・ディールウォッチ(期間: 2011/1/1~2011/12/31、自社債含む普通社債)

# 金融費用以外の費用

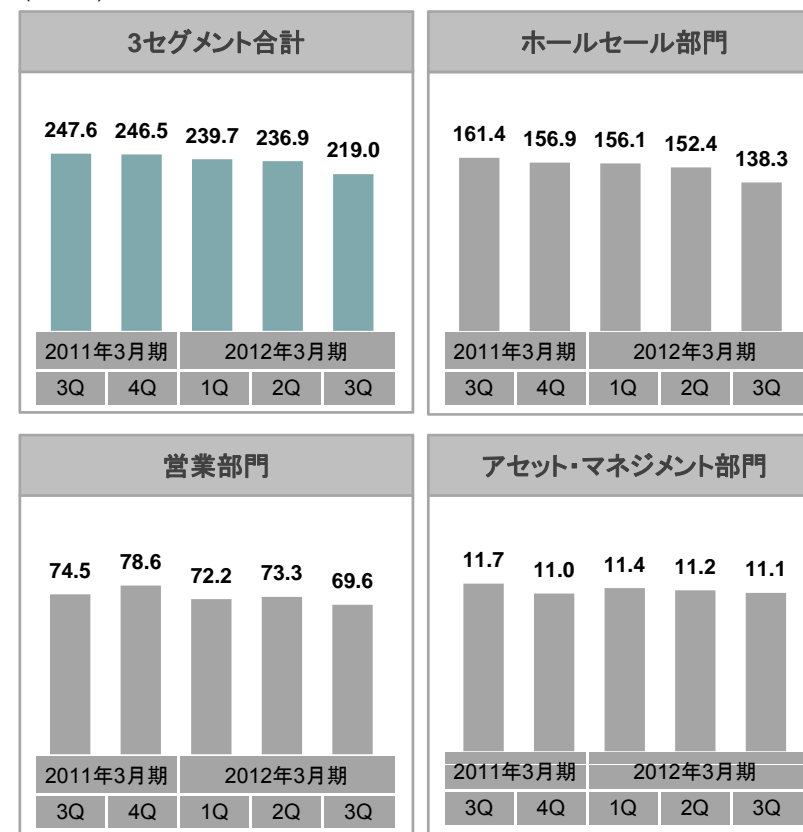
## 通期

## 四半期

## 3セグメント



(10億円)

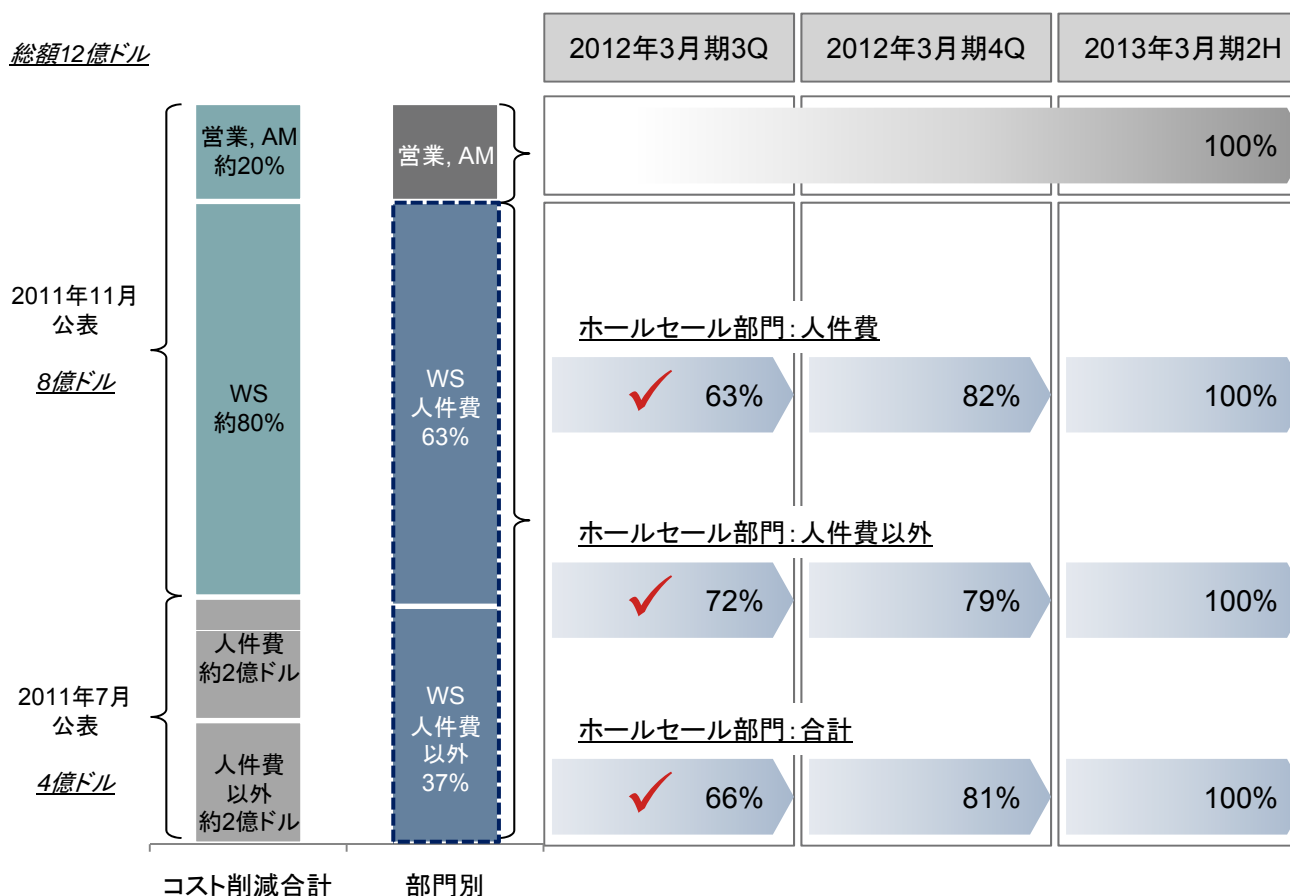


- 金融費用以外の費用: 3,705億円(前四半期比7%増)
- 新連結先を除いたベースでは、前四半期比で約4%減少
- 人件費: 前四半期比10%減 — 適切なコスト管理
- その他費用: 前四半期比37%増 — 新連結先の販売管理費(売上原価)増加が主な要因

# コスト削減の進捗

## 総額12億ドルのコスト削減スケジュール

## 2011年12月末までの進捗



- スケジュール通りに進捗
- 営業部門、アセット・マネジメント部門
  - 販売管理費 / 事業促進費の削減
- ホールセール部門: 進捗率66%
  - 人件費
    - 人員削減の実施
    - 退職者の補充見送り、新規採用の抑制
    - 事業の効率化(プラットフォーム統合、生産性の向上など)
  - 人件費以外の費用
    - システム費用の抑制
    - 人員数減少に伴う付随コスト削減

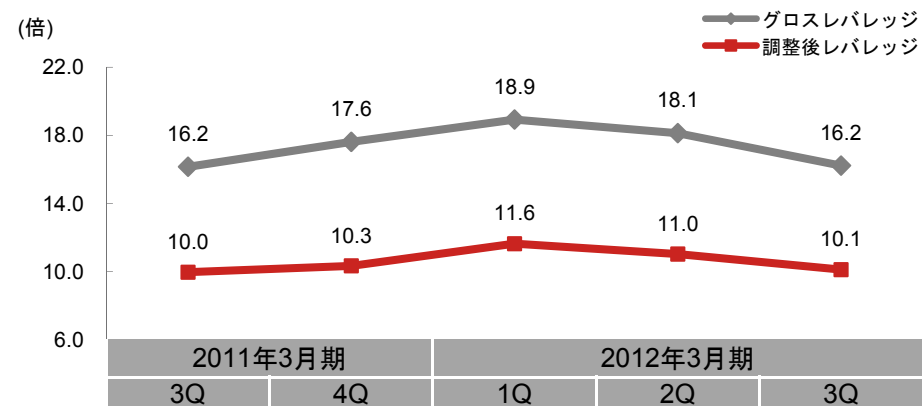
## バランス・シート関連指標と自己資本比率

■ 資産合計	33.5兆円
■ 株主資本	2.1兆円
■ グロス・レバレッジ	16.2倍
■ 調整後レバレッジ <sup>1</sup>	10.1倍
■ レベル3資産 <sup>2</sup>	約0.7兆円 (デリバティブ負債相殺後)
■ 手元流動性	5.5兆円

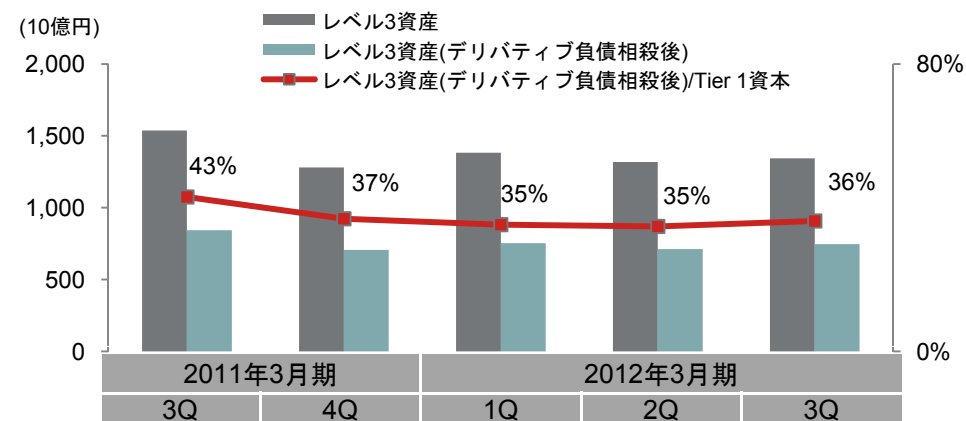
(10億円)

速報値	9月末 (バーゼル2ベース)	12月末 (バーゼル2.5ベース)
Tier 1	2,050	2,057
Tier 2	449	323
Tier 3	132	302
自己資本合計	2,530	2,466
リスク調整後資産	12,899	15,887
Tier 1 比率	15.8%	12.9%
Tier 1 コモン比率 <sup>3</sup>	13.7%	11.1%
自己資本比率	19.6%	15.5%

## グロス・レバレッジ、調整後レバレッジ<sup>1</sup>



## レベル3資産<sup>2</sup>の推移と対Tier 1資本比率



(1) 調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、野村ホールディングス株主資本の額で除して得られる比率

(2) 暫定数値

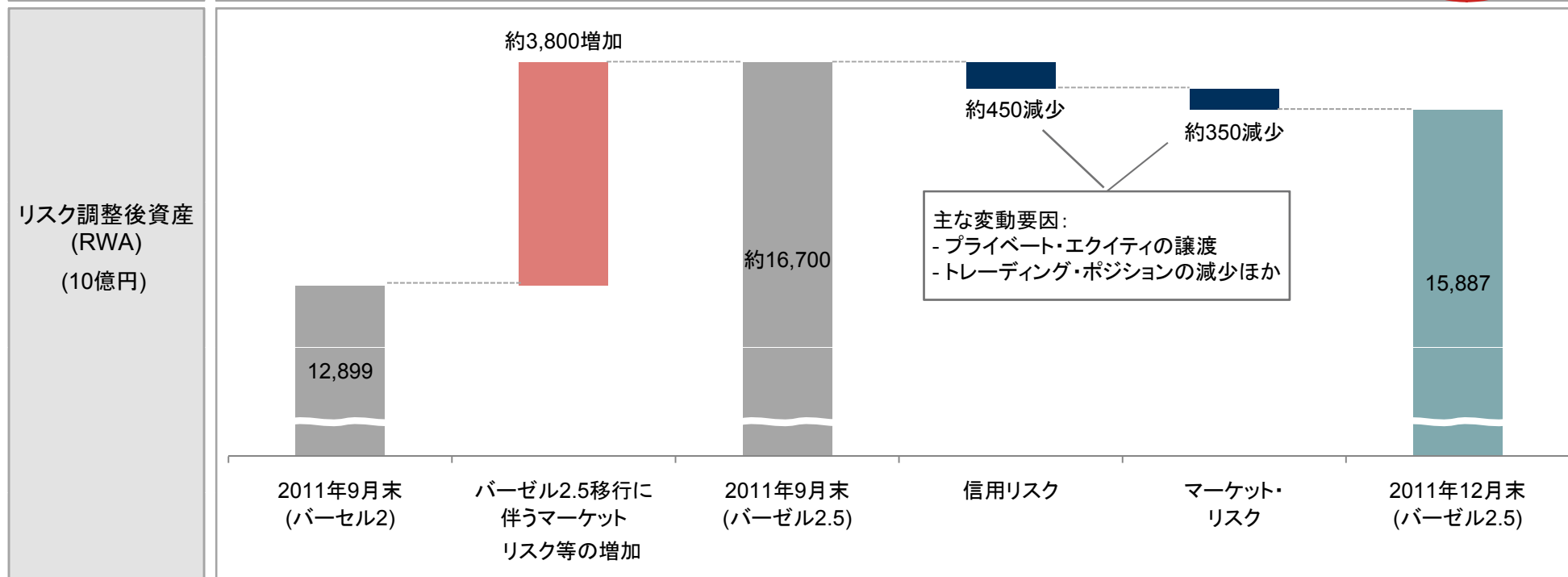
(3) Tier 1 コモン比率: Tier 1 資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したもの

# 自己資本(Tier 1)、リスク調整後資産の変動

2011年9月末 vs. 12月末



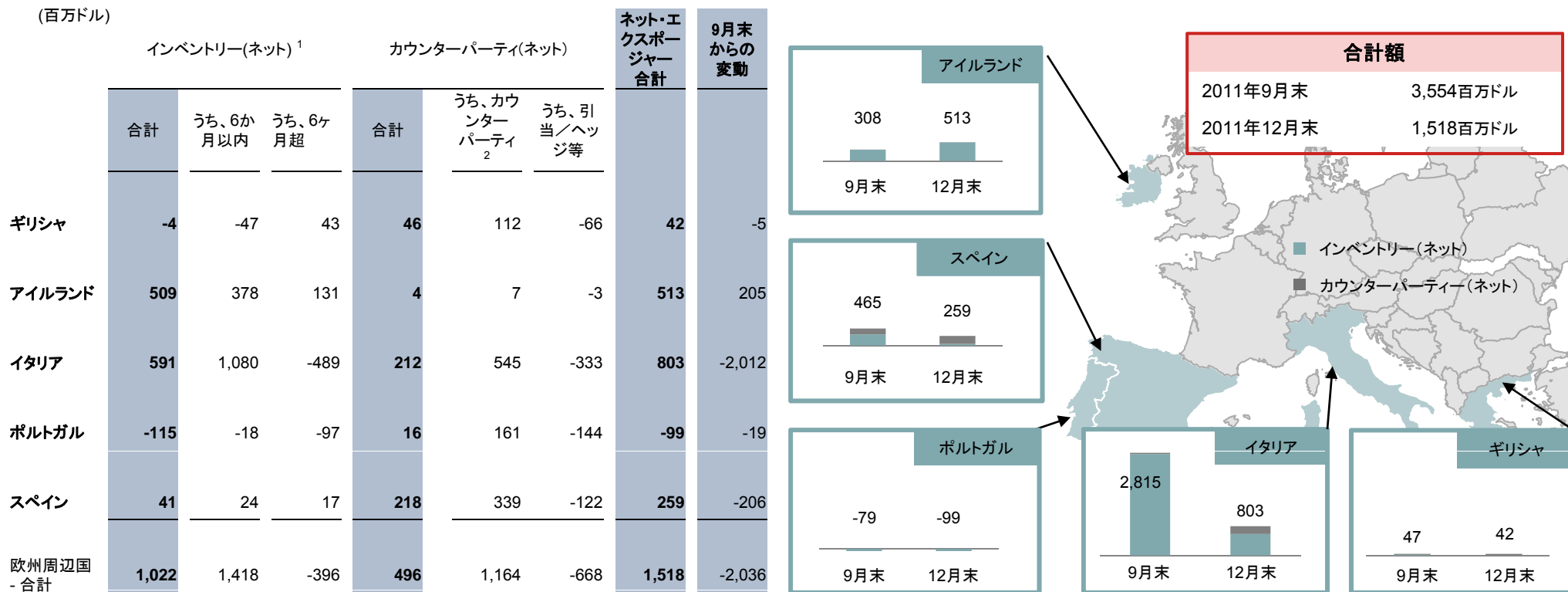
Tier 1比率	15.8%	12.2%	12.9%
Tier 1コモン比率	13.7%	10.5%	11.1%



# 欧州周辺国へのエクスポージャー

## 欧州周辺国(GIIPS)のカントリー・エクスポージャー (2011年12月末現在)

(百万ドル)



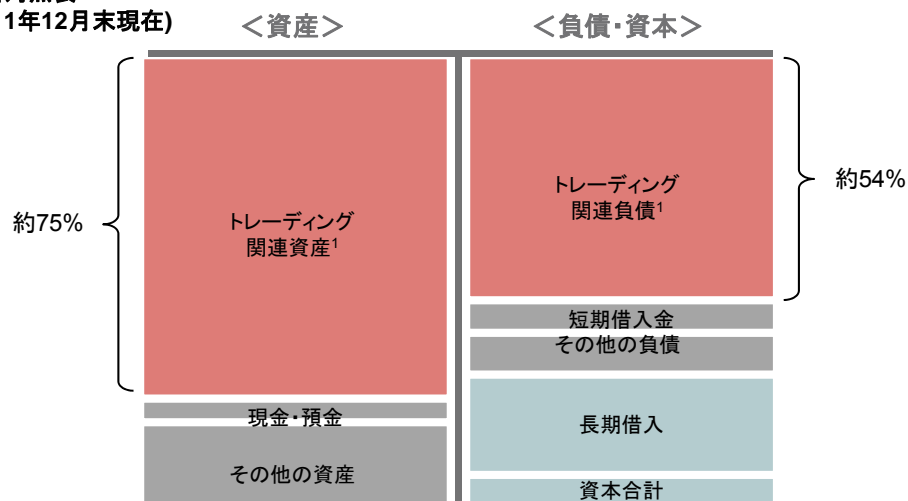
- 12月末現在、欧州周辺国へのネット・カントリー・エクスポージャーは15.2億ドル
  - 9月末(35.5億ドル)から20.4億ドル(57%)減少
- ネット・カントリー・エクスポージャーの53%(8.0億ドル)がイタリア
  - 9月末(28.1億ドル)から20.1億ドル(71%)減少
- インベントリーは全てトレーディング資産として保有しており、Mark-to-marketの対象

(1) ロング・ショートネットした商品在庫  
 (2) レボ取引、株券貸借取引、OTCデリバティブ等(受入担保価値控除後)

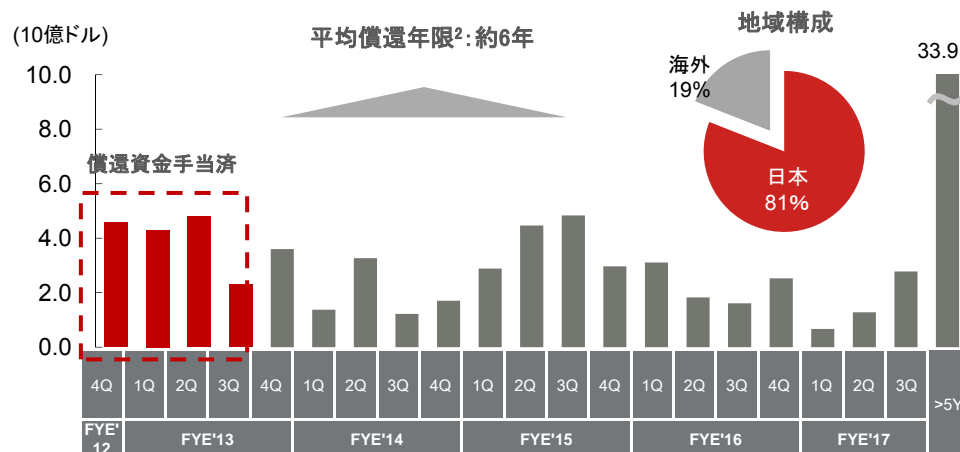
# 資金調達と流動性: バランスシート・負債構造

## 安定したバランスシート構造

貸借対照表  
(2011年12月末現在)

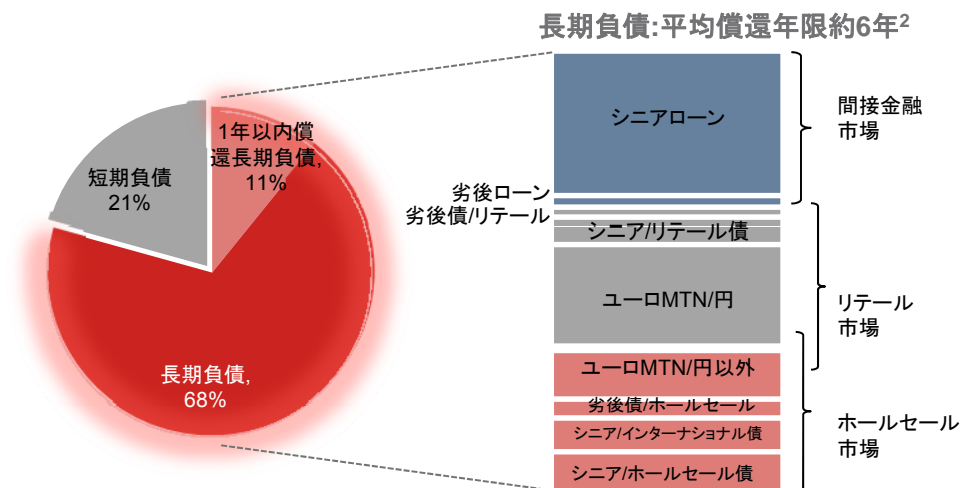


## 長期負債償還年限<sup>2</sup>



## 無担保資金調達<sup>3</sup>: 約80%が長期負債、調達先は分散化

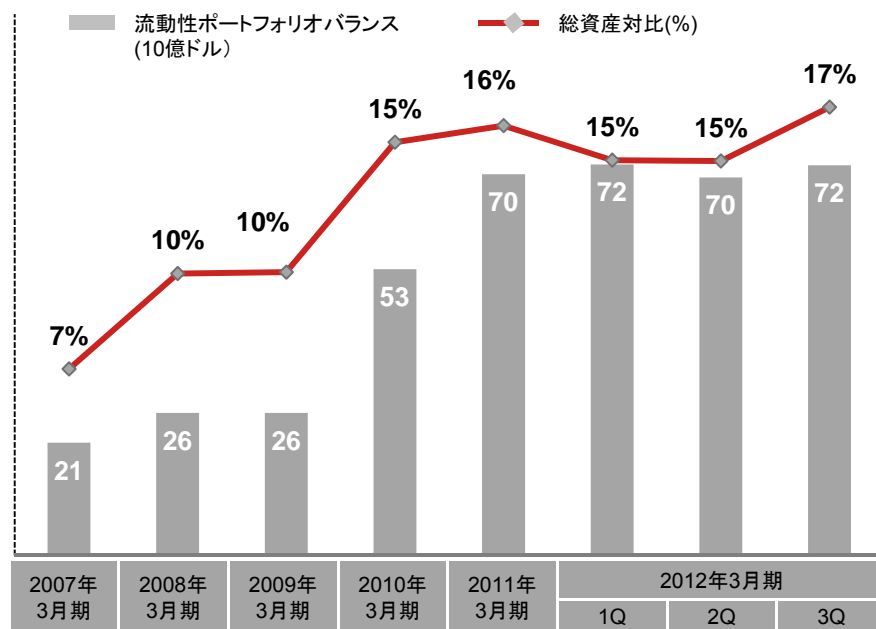
- バランスシートは構造的に安定
  - 資産の75%は流動性の高いトレーディング関連資産。レポ等を通じてトレーディング関連負債とマッチング(地域、通貨)
  - その他の資産は、資本及び長期負債で調達
- 保守的な調達構造
  - 無担保調達は約80%が長期負債で構成され、かつ調達先、調達年限も分散化
  - 劣後債(3,000億円)コールのタイミングに合わせて、Basel3に準拠した劣後債(1,700億円)を発行(2011年12月)



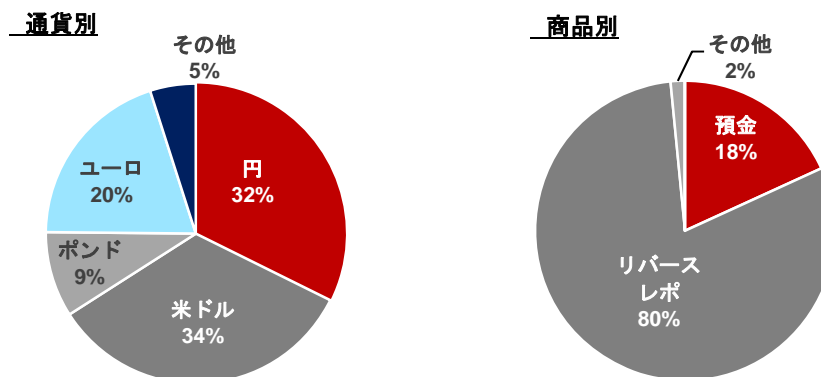
(1) トレーディング関連資産: リバース・レポ、証券、デリバティブ等、トレーディング関連負債: レポ、負債証券、デリバティブ等  
 (2) ストレスシナリオでの早期償還確率を織り込む  
 (3) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる



## 流動性ポートフォリオ<sup>1</sup>



## 流動性ポートフォリオの構成比 (2011年12月)



- 流動性ポートフォリオ所要額は以下2つの流動性ストレスを前提に設定
- これら2つのシナリオのもとであっても、資産売却等や資本市場での新規の社債・借入による調達に頼らずに、一定期間、事業を継続できる資金を確保することをグループ流動性リスクアピタイトとして規定
  - ストレスシナリオ： マーケットワイドなストレスを負荷
  - アキュートシナリオ： ストレスシナリオに加えて自社固有のストレスを負荷

- 十分な流動性ポートフォリオ残高を維持
  - 総資産の17%
  - 日・米・独・英の国債を中心としたリバースレポ、現預金<sup>2</sup>等で運用
  - 更なる事業環境の変化に対しても、新たな無担保資金調達に頼らず、1年以上、事業継続可能な高品質の流動性を常時保持
  - 欧州周辺国(GIIPS)関連資産での運用はなし

(1) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる。流動性ポートフォリオの中の現金・預金は取引所預託金およびその他の顧客分別金を含まない  
 (2) 主に日銀当座預金

**NOMURA**

---

**参考資料**

# バランス・シート関連データ

# NOMURA

	(単位:百万円)		
	2012年3月期 第3四半期 (2011.12.31)	前 期 (2011.3.31)	前期比増減
<b>資産</b>			
現金・預金:			
現金および現金同等物	1,014,576	1,620,340	△ 605,764
定期預金	450,566	339,419	111,147
取引所預託金およびその他の顧客分別金	304,405	190,694	113,711
計	1,769,547	2,150,453	△ 380,906
貸付金および受取債権:			
貸付金	1,072,128	1,271,284	△ 199,156
顧客に対する受取債権	58,168	32,772	25,396
顧客以外に対する受取債権	1,422,340	928,626	493,714
貸倒引当金	△ 4,878	△ 4,860	△ 18
計	2,547,758	2,227,822	319,936
担保付契約:			
売戻条件付買入有価証券	8,444,396	9,558,617	△ 1,114,221
借入有価証券担保金	4,160,002	5,597,701	△ 1,437,699
計	12,604,398	15,156,318	△ 2,551,920
トレーディング資産およびプライベート・エクイティ投資:			
トレーディング資産※	12,597,327	14,952,511	△ 2,355,184
プライベート・エクイティ投資	275,041	289,420	△ 14,379
計	12,872,368	15,241,931	△ 2,369,563
その他の資産:			
建物、土地、器具備品および設備 (2011年12月31日現在 352,876 百万円、 2011年 3月31日現在 300,075 百万円の減価償却累計額控除後)	1,054,560	392,036	662,524
トレーディング目的以外の負債証券※	836,243	591,797	244,446
投資持分証券※	78,304	91,035	△ 12,731
関連会社に対する投資および貸付金※	194,082	273,105	△ 79,023
その他	1,537,603	568,493	969,110
計	3,700,792	1,916,466	1,784,326
資産合計	33,494,863	36,692,990	△ 3,198,127

※担保差入有価証券を含む

	(単位:百万円)		
	2012年3月期 第3四半期 (2011.12.31)	前 期 (2011.3.31)	前期比増減
<b>負債および資本</b>			
短期借入	1,306,820	1,167,077	139,743
支払債務および受入預金:			
顧客に対する支払債務	730,871	880,429	△ 149,558
顧客以外に対する支払債務	386,581	410,679	△ 24,098
受入銀行預金	831,295	812,500	18,795
計	1,948,747	2,103,608	△ 154,861
担保付調達:			
買戻条件付売却有価証券	9,718,341	10,813,797	△ 1,095,456
貸付有価証券担保金	1,183,274	1,710,191	△ 526,917
その他の担保付借入	994,214	1,162,450	△ 168,236
計	11,895,829	13,686,438	△ 1,790,609
トレーディング負債	6,223,277	8,688,998	△ 2,465,721
その他の負債	1,131,515	552,316	579,199
長期借入	8,641,065	8,402,917	238,148
負債合計	31,147,253	34,601,354	△ 3,454,101
資本			
野村ホールディングス株主資本:			
資本金			
授権株式数 -	6,000,000,000株		
発行済株式数 -	2011年12月31日現在 3,822,562,601株 2011年 3月31日現在 3,719,133,241株		
発行済株式数 (自己株式控除後) -	2011年12月31日現在 3,662,704,334株 2011年 3月31日現在 3,600,886,932株		
資本剰余金	594,493	594,493	-
利益剰余金	693,202	646,315	46,887
累積的その他の包括利益	1,044,190	1,069,334	△ 25,144
計	△ 170,138	△ 129,696	△ 40,442
自己株式(取得価額)			
自己株式数 -	2011年12月31日現在 159,858,267株 2011年 3月31日現在 118,246,309株		
野村ホールディングス株主資本合計	△ 100,272	△ 97,692	△ 2,580
非支配持分	2,061,475	2,082,754	△ 21,279
非支配持分	286,135	8,882	277,253
資本合計	2,347,610	2,091,636	255,974
負債および資本合計	33,494,863	36,692,990	△ 3,198,127

# 連結損益

# NOMURA

(10億円)	通期					四半期				
	2007年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2011年3月期		2012年3月期		
						3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益										
委託・投信募集手数料	337.5	404.7	306.8	395.1	405.5	100.0	103.8	96.8	85.9	<b>74.0</b>
投資銀行業務手数料	99.3	85.1	55.0	121.3	107.0	34.0	27.8	13.8	13.8	<b>17.2</b>
アセットマネジメント業務手数料	146.0	189.7	140.2	132.2	143.9	37.1	38.3	39.1	36.7	<b>33.4</b>
トレーディング損益	290.0	61.7	-128.3	417.4	336.5	104.9	68.7	67.5	26.0	<b>80.1</b>
プライベート・エクイティ投資関連損益	47.6	76.5	-54.8	11.9	19.3	-2.4	23.6	-6.0	-2.3	<b>34.6</b>
金融収益	981.3	796.5	331.4	235.3	346.1	106.9	93.5	133.1	107.3	<b>103.1</b>
投資持分証券関連損益	-20.1	-48.7	-25.5	6.0	-16.7	2.1	-2.8	-0.6	-2.5	<b>-2.8</b>
プライベート・エクイティ投資先企業売上高	100.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	67.4	28.2	39.9	37.5	43.9	3.4	12.2	83.4	113.0	<b>141.9</b>
収益合計	2,049.1	1,593.7	664.5	1,356.8	1,385.5	386.0	365.0	427.0	377.8	<b>481.5</b>
金融費用	958.0	806.5	351.9	205.9	254.8	90.2	65.6	96.6	76.3	<b>76.6</b>
収益合計(金融費用控除後)	1,091.1	787.3	312.6	1,150.8	1,130.7	295.9	299.4	330.4	301.6	<b>404.9</b>
金融費用以外の費用	772.6	852.2	1,092.9	1,045.6	1,037.4	268.1	262.0	296.0	346.2	<b>370.5</b>
税引前当期純利益(損失)	318.5	-64.9	-780.3	105.2	93.3	27.8	37.4	34.4	-44.6	<b>34.5</b>
野村ホールディングス株主に帰属する当期純利益(損失)	175.8	-67.8	-708.2	67.8	28.7	13.4	11.9	17.8	-46.1	<b>17.8</b>

注: 当期の開示様式に合わせて過年度の数値を組み替えて表示しております。

2011年12月末現在	Standard & Poor's	Moody's <sup>1</sup>	格付投資情報センター(R&I)	日本格付研究所(JCR)
<b>野村ホールディングス株式会社</b>				
長期格付	BBB+	*Baa2	A+	AA-
短期格付	A-2	-	a-1	-
見通し	安定的	引き下げ方向で見直し	安定的	安定的
<b>野村証券株式会社</b>				
長期格付	A-	*Baa1	A+	AA-
短期格付	A-2	*P-2	a-1	-
見通し	安定的	引き下げ方向で見直し	安定的	安定的
<b>野村信託銀行株式会社</b>				
長期格付	A-	-	-	AA-
短期格付	A-2	-	a-1	-
見通し	安定的	-	-	安定的
<b>ノムラ・バンク・インターナショナル PLC</b>				
長期格付	A-	-	-	AA-
短期格付	A-2	-	-	-
見通し	安定的	-	-	安定的

(1) Moody's Investors Serviceは、日本の金融商品取引法上の登録を受けた信用格付業者ではありません。格付け前に「\*」が付されているものは無登録格付けです。